



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	檜葉町天神原湿原の再生
Alternative_Title	Regeneration of the Tenjinbara marsh in Naraha town
Author(s)	五十嵐 省一(東京電力ホールディングス), 中野 政仁(東京電力ホールディングス), 丸山 正(東京電力ホールディングス), 平野 篤(東京電力ホールディングス), 坂本 和也(福島県檜葉町), 渡辺 信彦(福島県檜葉町), 馬場 淳(東京パワーテクノロジー) Igarashi, Shoichi(Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.); Nakano, Masahito(Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.); Maruyama, Tadashi(Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.); Hirano, Atsushi(Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.); Sakamoto, Kazuya(Naraha Town Office); Watanabe, Nobuhiko(Naraha Town Office); Baba(Tokyo Power Technology Ltd.)
Citation	第7回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.74 The 7th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション: 環境再生・復旧・復興
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/157508
Right	© 2018 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第7回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



檜葉町天神原湿原の再生

○五十嵐省一*1 中野政仁*1 丸山正*1 平野篤*1
坂本和也*2 渡辺信彦*2 馬場淳*3

檜葉町の天神原湿原は「天神岬スポーツ公園」内に位置する約 900 m²の東西に長い湿原である。公園造成により面積は減少したが、オミズゴケが群生し、モウセンゴケやヒメタヌキモ等の食虫植物の他、様々な注目すべき種が生育していた。福島第一原子力発電所事故により、湿原の保全作業が中断し樹木の侵入や草地化等の劣化を招いたことから、湿原を再生し地域の自然環境資源として活かすことを目指して、檜葉町と東京電力ホールディングス(株)が協力して進めている取組みを報告する。

1. 実態調査

○湿性植物の残存状況、乾性植物(木本類を含む)の侵入状況、それらの面的分布を把握し、今後の保全計画策定の基本方針を決める材料とするため、植生調査を実施した。中間湿原に分類されるヨシ-オオミズゴケ群落とヌマガヤ-オオミズゴケ群落を中心に植物相は 50 科 141 種が確認され、環境省レッドリスト等に指定される重要種として 3 科 4 種(オオミズゴケ, カキツバタ, ノハナショウブ, サギソウ)を確認した。過去の記録では食虫植物の自生が知られているが、モウセンゴケ 10 株程度その他、ムラサキミミカキグサやヒメタヌキモは確認に至らず、今後の再生活動による復元が期待される。

○植生の面的分布と地下水位の面的分布の関係、季節に伴う変動幅や変動パターンを把握すると共に、地震による地下水位の変化を修正する必要性について検討するため、地下水位を継続して観測している。湿原全体で平均水位が地表面より高いのは、7 地点中北側の 2 地点のみで、ヒメタヌキモ等の抽水植物は生育にある程度水深が必要なことから、湿原の一部に対する水位コントロールについて検討した。

○今後も湿原が維持できるか判断するため、水質を調査した。現状の植生に変化をもたらす水質の富栄養化(リン酸イオン, 硝酸イオンの上昇に代表)は見られなかった。

2. 対策の検討

実態調査を元に、①不要木草の除去②人為的に池を設ける③土をプランターへ移し埋土種子の発芽を促す、④モウセンゴケについて日当たりを確保すると共に生育に適する貧栄養土壌を客土するなどの手法を選定し順次実施(一部計画)している。

3. 経過・考察

ハンノキ, オノエヤナギ等の木本類を除去したことにより無植生エリアが解消するなど植生の改善が見られた。上記②~④による希少種の再生/保全活動については食虫植物が開花時期を迎える 8 月以降を待って評価の上、今後の施策を検討する予定である。



オノエヤナギ, ハンノキ, スギ等の樹木が侵入
H29. 4



樹木の除去後
H29. 6



抽水植物の発芽を促す池の造成
H30. 3



モウセンゴケ(食虫植物)
H29. 6

*1 東京電力ホールディングス(株)福島復興本社 *2 福島県檜葉町 *3 東京パワーテクノロジー(株)